

第8回巴川遊水地第4工区浄化対策フォローアップ委員会（議事要旨）

年 月 日	令和5年3月23日（木） 時間 16:00～17:15
開催場所	静岡県静岡総合庁舎7階第8会議室
要 件	令和4年度 第8回巴川遊水地第4工区 浄化対策フォローアップ委員会
参 加 者	(委員) 京都大学_田中宏明名誉教授、静岡県立大学_雨谷敬史教授、京都大学_田中周平准教授 (事務局) 静岡県交通基盤部 河川海岸整備課長、静岡土木事務所長ほか (受託者) 大日コンサルタント株式会社 ※雨谷委員・田中周平委員・静岡県交通基盤部・静岡市は、別会場からwebにより参加
<u>1. 議題</u> (1) これまでの事業経緯 (2) 本年度の事業スケジュール (3) 台風15号(R4.9月)の出水による影響について (4) モニタリング調査結果の報告 (5) 水質浄化対策の再検討 (6) 今後の予定	
<u>2. 議事</u> 会議は公開で行われた。 ・ 議題(1)～(6)について、事務局から検討内容について報告がなされ、討議・質疑応答が行われた。	
<u>3. 議事の要点</u> (1) 台風15号(R4.9月)の出水による影響について、モニタリング調査結果の報告 ・ 遊水地としての治水上の効果があつた、ということを含めて、検討を行う。 ・ 洪水の持ち込んできた土砂で薄まるだけではなく、内部生産的なものに関わりダイオキシン類が発生していることが、台風15号の結果からわかるように思われる。 ・ 底質の点では、台風の出水により何ミリ～何センチの土砂が堆積し、ダイオキシン類が希釈側になったと考えられ、このようなことが何回か続くと、ダイオキシン類が下がるのが予想される。 ・ 富栄養化レベルの変化の視点も含め、来年度も水質調査を継続し、もう少しデータを蓄積して統計的処理を行い、洪水前の段階からどう変化したのか、今後どう変わる可能性があるのか という考察を深めると良い。 ・ 泥が流されてきて植物の生育地盤が上がり、乾燥化が進みオギが生えてきた。 ・ ヨシの生育については、生育範囲が減ったというのではなくて、被度が薄くなっている。 (2) 水質浄化対策の再検討 ・ 土壤改良工①は、実施検証の区画の規模を大きく計画し、土壤改良材が流出しないように工夫するとよい。 ・ 土壤改良工②の場所は、水際にヨシ生育しているところで行う方がよい。 ・ スロープによる盛り土は、慎重に場所を選び、生育しているヨシを傷つけないように配慮して行う。また、生育しているヨシに土壤pHを改善する土壤改良材を撒くとよい。 ・ 土壤改良材が流出しない対策として、他の対策や材料(ヤシ繊維)と組み合わせることが考えられる。 ・ 盛り土が成功とする基準について、ここでは富栄養化による水中のSSを下げるために植物を増やすという観点であることから、とりあえずは植生の復元がベンチマークとなろう。最終的には、ダイオキシン類を下げることである。 ・ 水位を下げるという対策について、河川管理者が自分でできる対策であるが、既存の堰板撤去では低水位に限界があつたということである。新しく樋門等を計画する際には、どこまで水位を下げるができるのか検討が必要であろう。 ・ 水位管理(低水位)は、実施検証:閉ざされた区画のドライな管理とワンセットで考えてほしい。 (次頁へ続く)	

4. 今後の予定

- ・ 次回のFU委員会は、対面方式で実施できるとよい。

5. まとめ

- ・ 出水について情報が集まり、水質面・底質面・植生面のインパクトはプラスもマイナスもあるようなので、今後もモニタリングを継続し、「こんなデータになった」だけでなく、「こう繋がって、こうなった、そして元に戻ったもしくは改善方向である」ということのような構造的な理解が大切である。
- ・ 施策として考えられるのは、植生を増やしていくことであるが、トライアルは道半ばである。その際、やってみたらどうだったでなく、ある程度の制御系をかけなければいけない。制御系をかけるためのいろいろな工夫を考慮してほしい。
- ・ 水位を下げる・コントロールする、あるいは底質のレベルを上げるは、植生の復元の問題に繋がりがあり、互いに関連するものなので、有効にうまく調査計画や施工計画を行ってほしい。
- ・ 重要なのは、一番の目的はダイオキシン類の対策・効果にどうつながるのか、管理をどうするのか、どこまで下げる必要があるのか、を頭に入れて行っていくことである。

以上